皮膚科学から見た化粧品配合の油性成分の影響

1. 油性成分の好影響
   様々な種類の化粧品（クレンジング、洗顔料、オイルケア、ファンデーション、化粧下地、乳液、クリーム、美容液など）に配合された油性成分は肌の表面に薄い油膜を作り残留することで、肌に対して以下のような一時的好影響を与えます：
   ① 水分蒸散の防止：肌をしっとり・柔らかく・なめらかな感触を与えます。また、肌を外部の刺激から保護します。
   ② 脂の浮き出しと洗浄：油性成分はメイクや毛穴の脂や脂汚れを溶かし、洗い流す役割を果たします。

2. 油性成分の悪影響
   しかし、その一方で、様々な種類の化粧品に配合された油性成分は肌の表面に薄い油膜を作り残留することで、肌に対して次のような慢性的悪影響を与えます：
   ① 角栓の形成：様々な種類の化粧品（クレンジング、洗顔料、オイルケア、ファンデーション、化粧下地、乳液、クリーム、美容液など）に配合された油性成分が完全に落とされていない場合、古い角質や皮脂と混ざって毛穴に詰まり、角栓の原因になります。
   ② 皮膚バリア力の低下：様々な種類の化粧品に配合された油性成分は、肌に浸透すると、肌に必要な脂質を溶かし、皮膚バリア力を弱め、非常にデリケートな肌状態にします。その時、異物侵入を防ぐために、また、水分蒸散を防ぐために、角質肥厚という肌の防衛反応が起きます。
   <u>角質肥厚のデメリット</u>
   - ニキビの形成：異物侵入を阻止しようと毛穴の入り口が塞がり、角栓ができやすくなり、ニキビにつながります。
   - 肌トラブルの発生：古い水分保持力のない角質層が剥がれないため、乾燥肌になります。また、ターンオーバーが停滞しますので、くすみ・シミ・透明感がない・キメが粗いなどの肌トラブルにつながります。

以上の知識を元に、スキンケアを実行することで、肌の健康を維持し、美しさを引き立てることができます。皮膚科学の視点から見た化粧品の使用についての理解を深める一助となれば幸いです。